

理科(物理・化学・生物・**地学**) 北海道大学 総合入試【理系】、学部入試【水産】

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

空所補充, 記述, 論述, 選択, 計算

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

計算過程を記述する問題は, 昨年度と同様に4問であったが, 字数指定の論述問題の総字数が増加(300字→370字)した。

出題の特徴や昨年との変更点

論述は例年通り「〇〇字以内」という形式で30字~60字にまとめる問題である。基本知識を問う問題もあるが, 問題文の条件や図から考察する問題もあり, 文章をまとめるのにやや時間を要する。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	空所補充 計算 記述 論述	地球の内部構造と岩石	地学基礎 地学	問4と問7は教科書の参考扱いであるが, 問4は固溶体の知識があれば答えられるだろう。問7は, 問題文をヒントにプレートの動きとそれに伴う地殻の変動を考えればよい。	標準
2	空所補充 選択 記述 論述	地表の変化と地質断面図	地学基礎 地学	問7の内容は, 教科書には説明がないため, 答えられない受験生が多かっただろう。原油が水よりも軽いなどの一般的な知識に加え, 砂岩層と泥岩層の透水性の有無などの知識が必要となる。	標準
3	計算 選択 空所補充 論述	天気図と大気の運動	地学基礎 地学	問1は, 単位換算に注意して計算しなければならない。問2は, 図1の前後の時間の天気図を予想して解かなければならない。また, 台風の周りの風向は反時計回りであることを考えればよい。	標準
4	計算 論述 選択	太陽系と恒星	地学基礎 地学	問2と問4は, 基本的な知識を押さえておけば得点できるだろう。問5は, 放射平衡温度とアルベドが同じであることが, 太陽定数に相当する値も等しくなるということに気付く必要がある。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

合格点に到達するためには、教科書に記載されている内容をきちんと理解しておかなければならない。一部、教科書にない用語や現象を取り上げることもあるので、地学を得点源にしたい・高得点を狙う受験生は、図や表を含めて、教科書の参考部分もしっかり読み込んでおきたい。また、計算問題では計算過程を書く場合が多いので、普段から計算の流れを書く習慣をつけておきたい。論述問題は字数制限が「〇〇字程度」ではなく、「〇〇字以内」なので、文章をまとめる力も養っておこう。